

人手不足の救世主 日本体育施設から FJDynamics製自動芝刈りロボット新型2機種販売開始

芝生管理コストを大幅削減し、高水準管理を実現

スポーツ施設の建設と管理・運営を専門とする日本体育施設（にほんたいいくしせつ）株式会社（本社：東京都中野区 代表取締役社長：越後 幸太郎）は、農業や建設業界向けの自動運転ソリューションを提供するFJDynamics社（本社：シンガポール）の日本販売代理店として、多機能芝刈りロボット『RM21P』とリールモア型※1芝刈りロボット『RCM01』の新型2機種について2026年10月1日（木）から発売を開始しました。

製品ページ： <https://www.ntssports.co.jp/product/fjd-top/>

※1：らせん状の回転刃と固定刃で芝生を挟んで切るため、切り口がきれいで芝生へのダメージが少ない芝刈機



多機能芝刈りロボット『RM21P』



リールモア型※1 芝刈りロボット『RCM01』

芝刈りロボット取り扱いの背景

近年、スポーツ施設やゴルフ場では、担い手不足や省人化ニーズの高まりを背景に、維持管理業務の自動化が求められています。日本体育施設は中期ビジョン「もう一歩先のフィールドへ 人と技術で未来を“健”設する」のもと、DX・ロボットソリューションを推進して、FJDynamics社製の芝生管理ロボットを取り扱っています。

2025年の販売開始以来、従来の主要顧客層に加え、新たな用途・分野からの引き合いがあり、利用者様からたくさんの驚きの声を頂きました。対応施設のさらなる拡大を通じて、業界が抱える人手不足に伴う課題解決に貢献するとともに、持続可能な施設運営を支援します。

利用者の声

FJDynamics社製の芝生管理ロボットは、これまで使ってきた自動機械とは精度が明らかに違うと感じました。走行がとても安定していて、芝生の上でのブレがほとんどありません。また、ロボットを導入してから、ロボットに作業を任せている間に、別のメンテナンス作業へ人員を振り分けられるため、省力化につながっています。人手不足の中では非常に助かっています。

株式会社杉澤緑地（本社：東京都杉並区／造園業） 杉澤幹生代表

その他にも利用者の声を巻末資料でご紹介しています。

FJDynamics製品について

このたび発売する両機種を含むFJDynamics社製の芝刈りロボットはAI技術、産業用RTK測位技術※2、スマートビジョンシステム※3を組み合わせることで、芝生エリアのマッピング（測量）と目的に合わせた走行ルートの生成ができます。

これにより芝刈りのための割付設計や刈込ルートの設計、スジューリングなどの計画策定をサポートします。

また、これらのプログラムに基づく自動走行により、従来の位置出し作業の手間も削減できます。

※2：GNSS（衛星測位システム）と基準局の補正データを活用し、建設機械、自動運転、ドローンなどで求められるセンチメートル単位の高精度な位置情報をリアルタイムに提供する技術

※3：カメラや画像認識技術を活用して対象物の検知・識別・計測・追跡などを自動で行うシステム



多機能芝刈りロボット『RM21P』の特長

多機能芝刈りロボット『RM21P』は、従来機の軽量化を図るとともに、自律走行性能、メンテナンス性、システムの操作性を向上させました。また、複数の作業に対応できる豊富なアタッチメントを新たにラインアップし、施設のニーズに応じてカスタマイズすることで多くの用途で活用可能です。

■豊富なアタッチメントでカスタマイズ可能

・ラインマーカー／ボールピッカー／集草機／ブラッシング他



■サスペンション式で刈込性能向上

・フロント部をサスペンション式（昇降式）へ改良し、フロート式カッティングデッキ※4を搭載したことにより凹凸のある地形でもより美しい仕上がり品質を実現

※4：芝生を刈る刃の部分が地面の起伏に合わせて上下に動く機構

リールモア型※1 芝刈りロボット『RCM01』の特長

リールモア型※1 芝刈りロボット『RCM01』は、待望のリール刈りに対応したモデルです。サッカー場や野球場などのグラウンド管理を行うグラウンドキーパーのニーズに応える高品質な芝刈りを実現し人手不足に悩む現場の課題解決に貢献します。

■芝生へのダメージが少ないリールモア型※1仕様

・芝生への負担を最小限に抑える「リールモア型※1 刈込」を実現
・高精度ローラーブレード※5が、くっきりと際立つストライプを創出

※5：回転するらせん状の刃と受け刃で芝生をはさみ切る刈刃機構



リールモア型※1 芝刈り

企業情報

本社所在地：東京都中野区東中野3-20-10
代表取締役社長：越後 幸太郎
事業内容：スポーツ施設の建設、管理・運営
従業員：153名（2026年3月末現在）

報道関係者 お問い合わせ先

日本体育施設株式会社 広報担当：櫻井・細野
メールアドレス：koho@ntssports.co.jp
電話番号：03-5337-2611
ホームページ：<https://www.ntssports.co.jp/>

日本体育施設が取り扱う、その他のFJDynamics社製品と利用者の声をご紹介します。

Jリーグ関連施設でも使用中！

高精度なロボットラインマーカー PaintMaster™ Pro

『PaintMaster™Pro（ペイントマスタープロ）』は、スポーツフィールドに欠かせないラインマーキングロボットです。木の下やスタンド近くなど、GPSが困難な場所でも数cmレベルの精度でマーキング可能。あらゆるスポーツフィールドに最適なラインマーキングロボットです。

製品ページ：<https://www.ntssports.co.jp/product/fjd-paintmaster/>



ポータブルマーカーで
簡単マッピング



スマートフォンの画面
(操作や画像データをリモート管理)

■ポータブルマーカーで簡単マッピング

- 標準搭載のポータブルマーカーが、ロボット本体を移動させずに数分で簡単にマッピング

■高精度なラインマーキング

- 最高水準のマーキング精度を実現
- 受信情報のずれ、偏りのリスクが減少

■ユーザーフレンドリーなソフトウェア

- 250種類以上のマップデータを搭載
- オリジナルコートやロゴなどで多様なニーズを実現
- 一か所のマーキングが終了すると次のフィールドに自動切換え
- アプリからマーク状況をモニタリングし、操作や画像データをリモートで管理

労働コストを最大90%削減

塗料の消費を約50%削減

さまざまな
スポーツフィールドに対応

利用者の声

従来のライン引き作業は、ロープを張って3～4名で行っており、ライン位置を変更する際には基準点から測り直す必要があるため、多くの時間と手間がかかっていました。しかし、FJDラインカーを導入してからは、一切の人的作業がなくなり、人員や作業時間の削減につながりました。その結果、空いた人員を他の業務へ配置できるようになり、全体の作業効率も向上しています。

Jリーグチーム練習場 芝生管理者 鈴木氏

一度マッピングを行えばすぐにライン引きを始められ、フルサイズのサッカー場でも従来の半分以下の時間で作業を終えられるようになりました。また、塗料を最適な量で噴射してくれるため、塗りムラがなく、塗料の無駄も削減できました。さらに、高精度GPSによって、手作業では難しいサークルやコーナーもきれいに仕上げられました。

Jリーグ関連施設芝生管理者 田中氏

ミニラインマーカーロボット『RLM02 PaintMaster™ Mini』

『RLM02 PaintMaster™ Mini（アールエルエム02 ペイントマスターミニ）』は、軽量・高精度な自律ラインマーキングロボットです。サッカー場や野球場、ラグビー場などのスポーツ施設向けに、効率的かつコスト削減を実現し、簡単操作と高い安全性を備えています。

- ・ 軽量・コンパクト設計で持ち運びしやすい
- ・ 交換式バッテリーにより終日の運用にも対応
- ・ アプリによる遠隔監視・操作
- ・ 障害物回避やGPS盗難防止機能を搭載



アプリによる操作

ミニ芝刈りロボット『FRX』

『FRX（エフアールエックス）』は、スポーツフィールドやゴルフコース向けに設計されたプロフェッショナル仕様のミニロボット芝刈り機です。

■サスペンション式ディスクと昇降シャーシを搭載

独自のサスペンション式カッティングディスクとフロントサスペンションシャーシを搭載し、地形の起伏に追従しながら常に安定した精密な刈込を実現します。



自動昇降カッティングディスク

中型芝刈りロボット『Titan』

『Titan（タイタン）』は、RTK GNSS、LiDAR、ビジョン技術を組み合わせた高精度なナビゲーションにより、安定した走行と障害物回避を実現します。

最大730mmのワイドな刈幅で、1日あたり最大36,000㎡の芝管理が可能です。

■ラインマーキングにも対応

マーキングキットを装着することで、芝刈りと競技フィールドのマーキングを実施でき、作業効率向上と省人化に貢献します。



ラインマーキング状況